

令和3年第3回新十津川町議会定例会一般質問通告表

順位 (議席番号)	質問者	質問事項	答弁者	摘要
1 (7)	西内 陽美	<p>1 3歳児健診における視力検査体制の充実について</p> <p>生まれたばかりの子どもははっきりと物が見えていないが、3歳ごろまでに急激に視覚が発達し、多くは6歳ごろまでに1.0以上の視力になる。視覚発達を遂げる視覚感受性期は6歳くらいまでで、その間に正常に脳の視覚領域が発達しなければ、眼鏡やコンタクトレンズを使用しても十分な視力を得られない弱視になる。弱視を予防するには早期発見・早期治療が肝要である。</p> <p>現在、乳幼児健診における視力検査の方法は各自治体に任されているが、本町の場合は、3歳児健診時に、親への問診と、保健師が子どもに数枚の絵を見せその名称を答えることができるかという方法が取られている。うまく答えられなかったとしても「普段は全く症状がないから、答えられなかっただけ」と弱視が見逃されてしまう可能性がある。</p> <p>本町の3歳児健診で目の異常が疑われた場合は、健診後に眼科受診を勧奨するが、その追跡調査はしていないとのことである。</p> <p>3歳児健診後に、子どもが視力検査を受けられるのは小学校入学前の就学時健診であり、そこで初めてランドルト環検査を受け、視力が判定される。3歳児健診で目の異常を疑われるのは年に1～2名と言うが、早い段階で治療を行えば、視力の成長を促すことができるものと考ええる。</p> <p>8月13日、厚生労働省が眼鏡を掛けても視力が出ない「弱視」を予防するため、目のピントが合っているかを調べる「屈折検査」を3歳児健診に導入するよう全国の市区町村に促す方針を発表したことから、本町の3歳児健診の視力検査用に、弱視等の早期発見に向けた屈折検査機器の導入を検討すべきと考えるが、町長の考えを伺う。</p>	町 長	

順位 (議席番号)	質問者	質問事項	答弁者	摘要
2 (5)	小玉 博崇	<p>1 住宅耐震化促進の取り組みについて</p> <p>地震による住宅・建築物の倒壊等の被害から人命を守るため、本町では平成23年度に新十津川町耐震改修促進計画を策定し、実情に応じ5年ごとに見直しをしてくている。</p> <p>平成28年度からスタートした現計画は令和2年度で最終年となり、これまで耐震診断、耐震改修工事、解体工事への助成金を交付などの取り組みを実施してきた。</p> <p>しかし、これまでの助成の実績は解体工事への助成件数が令和2年度までで85件となり、空き家対策面でも効果があったと思われるが、耐震診断及び耐震改修工事への助成実績は0件となっている。</p> <p>今後、住宅耐震化の促進に向け、どのように考えているのかを伺う。</p>	町 長	
		<p>2 ふるさと公園を軸とした観光の資源の創出について</p> <p>令和5年5月のグランドオープンに向け、ふるさと公園のリニューアル工事が計画的に進んでいる。</p> <p>ふるさと公園は新十津川町観光の目玉となり、町内外から多くの方が訪れ、まちの活性化につながることを期待される。今一度、観光資源の発掘、創出を行い、町の魅力が複合的、有機的に組み合うことでふるさと公園を軸とした本町の魅力向上を図ってはいかがか。</p> <p>今後、新しくなるふるさと公園を生かした更なる観光振興をどのように行うのかを伺う。</p>	町 長	